

美術批評

全13巻+別巻1

◆監修 北澤憲昭 KITAZAWA Noriaki

美術評論家 女子美術大学教授

◆解説 光田由里 MITSUDA Yuri

美術評論家

美術批評の英雄時代を現出させた幻の雑誌

『美術批評』全62号復刻

批評の初心

美術評論家・美術史家
女子美術大学教授

北澤憲昭



サンフランシスコ条約発効を目前にひかえた1952年1月に『美術批評』は創刊された。その名のとおり美術にかんする言論の場として設けられた雑誌で、月刊ペースで57年2月まで五年にわたって美術出版社から発行された。戦中の雑誌統制期以来、同社の二本柱でありつづけてきた大下正男、藤本韶三のコンビネーションのもと、西巻興三郎が編集にあたった。

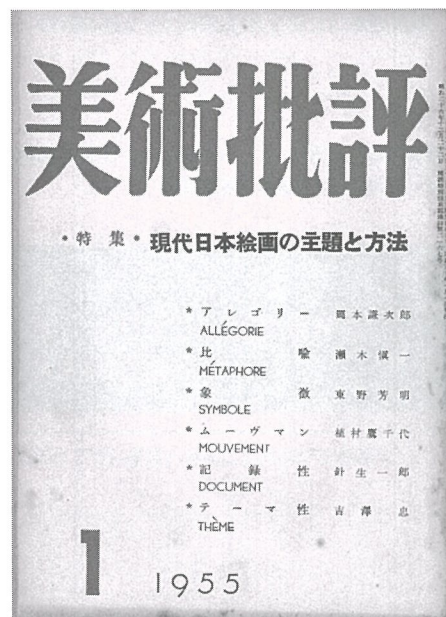
現在も『美術手帖』誌に場を変えて続く「芸術評論」賞を設け、東野芳明、中原佑介、多木浩二、中村義一ら戦後を代表する美術評論家を世に送り出したのは同誌である。審査にあたったのは瀧口修造、今泉篤男、植村鷹千代ら戦争をかいくぐってきた批評の先行者たちであったが、このうち瀧口は、同誌からスタートする60年美術批評にとって教父のような存在でありつづけた。受賞者ではないものの針生一郎

や瀬木慎一も、この雑誌から批評家としての経歴をスタートさせている。

つまりはプロの美術批評家の育成の場であったわけだが、育成の手法はスパルタ主義であった。読者をも交えた論争によって批評的言説を鍛えあげていったのである。批評の在り方を問いかけるテキストをしばしば掲載する一方、「ROUND TABLE」という読者欄を設けて批評的フィードバックを奨励することで論争状況を醸成していったのだ。メタ批評を誘発し、批評の自意識を高める育成法である。

論争は、批評の脊柱である。批評が批評である以上、たとえ実際に論争を惹き起こすことがなくとも、なにごとか論争の種子を必ず含む。そもそも、批評的テキストは、自己のうちに育んだ論敵との応答の繰り返しのなかから生まれるものなのだ。そればかりではない。あるジャンルにおける批評とは、そのジャンルにおける最も先鋭な自己意識、ついには当該ジャンルの他者に転化するまでに先鋭な自己意識の書法にほかならない。だから、この雑誌が終刊間近にシュルレアリスムにかんするレポートと討議を連載したのは決して偶然ではない。シュルレアリスムとは、ほんらい芸術にとっての他者であったはずだからである。

『美術批評』誌の復刻合本は、史料として役立つのみならず、論争なきこの時代に批評の初心を思い起こさせてくれる貴重な啓発の書冊ともなるだろう。



- 戦後の美術界を牽引した批評家、作家の重要テキストを数多く掲載。
- 国内外から注目を集める日本の戦後美術を研究するうえでの必須文献。
- 別巻索引では、人名、展覧会、美術館、画廊を採録予定。

本文
見本

85%に縮小

美術批評・1952・6



目次

芸術と自由	滝口修造 (二)
アンケート「破防法などについて」	二十五名 (四)
美術家と政治	富永惣一 (九)
現実と革命的ロマンチズム	植村鷹千代 (三)
美術に加えられた弾圧と抵抗の歴史	柳 亮 (六)
座談会「破防法への懸念」	中村哲・富永惣一・中谷泰 (三)
ヨーロッパの話題	(七)
フォーヴィスムの再検討	寺田 透 (〇)
日本国際美術展を観る	西脇順三郎 (五)
海外作品の価格	(四)
ニュース	(四)
個展評	(四)
批評の広場	(四)
記録	(四)

芸術カトリック・ピカソ
日次カット・辻 光典 (於丸善・近代美術研究所展より)



超近代的絵画は どう発展するか

—技術への問題提起—

岡本太郎

- (上)「美術批評」第6号(1952年6月)から
- (右)「美術批評」第7号(1952年7月)から

中村哲・富永惣一・中谷泰 (三)

『美術批評』とは 1952年(昭和27年)1月創刊、1957年(昭和32年)2月に第62号で「絶刊」するまで、美術出版社(現・株式会社美術出版社)から発行されていた月刊誌。鑑賞本位の既存の美術雑誌とは一線を画した体裁と、問題提起を仕掛けて発言の意欲をもつ人に論争の場を提供するという一貫した編集方針を採った。執筆者は有名無名にかかわらず、その出自も美術以外の文学、映画、演劇、建築、音楽、漫画と多岐にわたっている。

美術批評 全13巻+別巻1巻

【監修】北澤憲昭 美術評論家 女子美術大学教授 【解説】光田由里 美術評論家

●揃定価：本体219,000円+税 ISBN978-4-8433-4281-7 C3370

A5判上製／カバー装

美術批評



美術批評の英雄時代を現出させた 幻の雑誌『美術批評』全62号を復刻

『美術批評』は、1952年1月から1957年2月までの約5年間発行され、並行する『美術手帖』が展覧会案内や展評を柱として一般の美術ファンに向けたものであったのに対し、本誌は、気鋭の批評家による文章を数多く掲載し、戦後の美術界を牽引する役割を担った。昨今、日本の戦後美術への関心が高まりを見せ、海外での研究も本格化しつつある。そのような状況において、本誌『美術批評』の復刻により日本の美術研究全体の進展に寄与することを願うものである。

本書の特色

- 戦後の美術界を牽引した批評家、作家の重要テキストを数多く掲載。
- 国内外から注目を集める日本の戦後美術を研究するうえでの必須文献。
- 別巻索引では、人名、展覧会、美術館、画廊を採録予定。

第1回配本・全4巻

既刊・2014年5月刊

●全4巻揃定価：本体58,000円+税

ISBN978-4-8433-4282-4 C3370

- 第1巻●創刊号～第6号（1952年1月～6月）
- 第2巻●第7号～第12号（1952年7月～12月）
- 第3巻●第13号～第18号（1953年1月～6月）
- 第4巻●第19号～第24号（1953年7月～12月）

本体15,000円 ISBN978-4-8433-4285-5
本体14,000円 ISBN978-4-8433-4286-2
本体14,000円 ISBN978-4-8433-4287-9
本体15,000円 ISBN978-4-8433-4288-6

第2回配本・全4巻

既刊・2014年9月刊

●全4巻揃定価：本体67,000円+税

ISBN978-4-8433-4283-1 C3370

- 第5巻●第25号～第30号（1954年1月～6月）
- 第6巻●第31号～第36号（1954年7月～12月）
- 第7巻●第37号～第42号（1955年1月～6月）
- 第8巻●第43号～第48号（1955年7月～12月）

本体16,000円 ISBN978-4-8433-4289-3
本体16,000円 ISBN978-4-8433-4290-9
本体17,000円 ISBN978-4-8433-4291-6
本体18,000円 ISBN978-4-8433-4292-3

第3回配本・全5巻

2015年2月刊行予定

●全5巻揃定価：本体84,000円+税

ISBN978-4-8433-4706-5 C3370

- 第9巻●第49号～第51号（1956年1月～3月）
- 第10巻●第52号～第54号（1956年4月～6月）
- 第11巻●第55号～第57号（1956年7月～9月）
- 第12巻●第58号～第60号（1956年10月～12月）
- 第13巻●第61号～第62号（1957年1月～2月）

本体18,000円 ISBN978-4-8433-4293-0
本体18,000円 ISBN978-4-8433-4294-7
本体18,000円 ISBN978-4-8433-4295-4
本体18,000円 ISBN978-4-8433-4296-1
本体12,000円 ISBN978-4-8433-4297-8

第4回配本・別巻1巻

2015年8月刊行予定

●別巻●解説／索引

本体10,000円 ISBN978-4-8433-4298-5

ゆまに書房 〒101-0047 千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 <http://www.yumani.co.jp/>